

アメリカの連続ドラマに表された人間関係と社会的価値観の変化 — 『フルハウス』と『フラーハウス』を事例として—

土谷 真子

映像コンテンツにはその時代の文化・価値観が反映されており、1980年代におけるアメリカのテレビドラマには、伝統的なアメリカの家族観が表されていることが明らかになっている。一方、動画配信の普及により、直近に制作された続編シリーズが数十年前の初期シリーズと共に配信されるようになり、長期間を隔てた変化の様相を比較対照できる状況が生じている。また、インターネット上にはテレビドラマへの評価を寄せるサイトが設けられ、コメントの分析によって視聴者の反応を量的に把握することも可能になっている。

本研究は、1980年代に多くの視聴を集めたドラマ『フルハウス』と2010年代に配信されている続編『フラーハウス』を事例とし、アメリカの連続ドラマに映し出された社会的価値観の変化を、視聴者コメントの分析とドラマの内容分析の両面から明らかにすることを目的とし、調査と分析を行った。

コメント分析では、内容語の出現度数と順位、共起関係などを調査し、視聴者の属性や視聴者が番組に付与したポイント数などと合わせて分析した。内容分析では、登場人物相互の援助行動とその方向性、エピソード描写の共通点と相違点などを調査し、分析した。

その結果、コメント分析では、『フルハウス』では、理想的な家族像の投影と感じられていることを窺わせる表現が多く現れたのに対し、『フラーハウス』では、成人向けの番組であるという印象が抱かれていることを窺わせる表現が多く現れた。また、共起関係においては、『フルハウス』では、大人と子どもが結びついて一体となった家族関係が示されたのに対し、『フラーハウス』では、大人と子どもが別のグループに分かれ、独自の行動をとる関係にあることが示された。内容分析では、『フルハウス』は、1980年代に理想とされた伝統的な家族を描いているのに対し、『フラーハウス』は、家族よりも個人の価値観を優先する家族像を描いていることが明らかになった。

『フルハウス』と『フラーハウス』という二つのシリーズは、30年の時を隔てたアメリカにおける社会的価値観の変化を、家族における人間関係の相違という態様で、テレビドラマの上に如実に映し出しているといえる。

本研究は、特定の国における特定の作品に限った調査と分析ではあるが、視聴者コメントに対する量的分析とコンテンツの内容に対する量的および質的分析を組み合わせるという方法により、作品に投影された社会的価値観の変化を実証的に明らかにしたという点で、今後、他の映像コンテンツについての研究にも応用できる知見を提供したと考えられる。

(指導教員 辻 泰明)